

令和8年宇美町議会3月定例会

町長所信表明

議員各位、そして町民の皆さま。このたび、引き続き、町政のかじ取りを担わせていただくこととなりました。町民の皆さまの信託の重みを胸に、改めて身の引き締まる思いであります。

私は就任以来、「ふるさと宇美を誇りに思えるまちづくり」を基本に、現場に足を運び、声を聴き、スピード感をもって一つひとつの課題に取り組んでまいりました。

社会は、人口減少、物価高騰、人手不足、災害の激甚化、デジタル化の進展など、かつてない速度で変化しています。だからこそ、二期目の町政運営にあたっては、変化に耐える「守り」と、未来を切り拓く「攻め」を両立させ、町民の暮らしの安心と、宇美町の持続可能性を確かなものにしてまいります。

一期目の4年間で振り返りますと、就任直後は、新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人との接触が制限される厳しい状況でした。

そのような中、町公式 LINE や公式 Instagram を開設し、積極的な情報発信に努めてまいりました。

コロナ禍が落ち着いてからは、宇美町の歴史を紹介したガイドブックや観光パンフレットを作成し、交流人口・関係人口の増加を見据えたシティプロモーションに力を注いできたところであります。

また、JR 宇美駅前のキッチンカー出店の仕組みづくりや共働事業提案制度補助金交付事業を実施して、町の賑わいを取り戻すための取組を町民の皆さまと共に展開してまいりました。

私は、これまでの4年間、5 つのビジョンを掲げて、新しい宇美町づくりにチャレンジしてまいりました。

1つは、「ふるさと宇美」を誇りに思えるようなまちづくりを進めることです。

宇美町は、豊かな自然や貴重な歴史的・文化的資源、そして伝統が息づいています。次の 100 年に向けて、全ての町民が「ふるさと宇美」を誇りに思えるまちづくりを進めるための道標として「宇美町町民憲章」を令和4年3月に制定いたしました。

財政基盤の強化にも取り組み、一般会計の基金残高、いわゆる町の貯金は、就任前(令和3年度決算)の約28億円(27億8,000万円)から4年間で14億円超を積み増すことができ、今年度の決算見込みでは42億円を超えるのではないかと推計しています。基金残高が42億円を突破すれば平成7年度末以来30年ぶりとなります。

また、一般会計の地方債残高、いわゆる町の借金は、就任前、約98億3千万円(98億3571万円571万円)でしたが、本年度決算では約14%

減の約84億3千万円(84億3,957万円)となる見込みで、約14億円減らすことができました。これも、平成7年度末(84億6,321万円)に並ぶ低水準となる見込みです。

その他、財源確保策として、収納率の向上に加え、ふるさと納税の取組を強化してまいりました。

昨年度のふるさと納税額は約3億8,000万円でしたが、体制強化を行い、返礼品PRの強化や新たな返礼品の開発など、職員とともに知恵を出し合った結果、今日までに17億円を突破し、過去最高額を大幅に更新しております。

更には、企業版のふるさと納税についても、町の政策を応援していただける会社が年々増え続け、今年度は6千万円余をご寄付いただいております。引き続き、持続可能な行財政運営に努めてまいります。

2つは、子どもを安心して産み育てることができ、新しい時代に対応した教育を受けることができるまちづくりを進めることです。

私は、将来的なまちづくりとして、子ども・教育への投資は、必要不可欠だと思っております。

令和6年度には、子ども医療費制度を拡充して、小・中学生の通院負担の上限を1200円から500円に引き下げ、令和8年度にはそれを高校

生世代までさらに拡充いたします。

子育て施策は、本町の最重要施策として取組を強化していく方針としており、令和8年度から、国の交付金とふるさと応援基金を活用して小学校給食費の無償化も決めております。

保育料の第3子以降無償化、学校体育館のエアコン整備、校舎のLED化についても、取組を矢継ぎ早に進めてまいります。

また、全国的に不登校のこどもが増えており、宇美町も例外ではありません。そのような中、柔軟なカリキュラムで個々のペースに合わせた指導を行うことができる文部科学大臣指定の学校「学びの多様化学校」を昨年4月にうみハピネス内に開校いたしました。

現在28人のこどもたちが通っており、3月には初めての卒業生(中学生9人)を送り出すこととなります。中には、本来通うはずだった学校に戻れそうなこどもも出てきておりますので、本当に開校してよかったと思っています。

その他にも、こども家庭センターの新設や、出産・子育て応援事業などを鋭意進めてきたところですが、令和8年度からは妊産婦応援事業を電子クーポン化し、複数の支援サービスを一体的に利用できる仕組みとして「全国初」の取組を開始いたします。

このような取組が功を奏し、宇美町はこの 4 年間、転出者よりも転入者が上回る転入超過が続いております。これは「子育てするなら宇美町で」と、子育て世代に選ばれている結果だと思っております。

引き続き、妊娠期から始まる子育て支援や保育・教育の充実だけでなく、すべての分野において子育ての視点に立った「子育てしやすいまち」を念頭においた取組を進めてまいります。

3つは、保健・福祉が充実したまちづくりを進めることです。

長く続いたコロナ禍や物価高騰により、町民の皆さまの生活を支援するため、上下水道基本料金の減免、学校給食費等負担軽減、生活応援地域商品券の発行などを実施してまいりましたが、食料品価格等の物価高騰が続いていることから、国の「重点支援地方交付金」を活用した取組について、他の自治体が「お米券」や「商品券」の配布を検討する中、宇美町では町民全員への 1 万円現金給付を決めました。

これは、「お米券」や「商品券」の配布、上下水道基本料金の減免では町民の手元に届くまで時間がかかりすぎることに、そして、現金給付が最速で確実な支援であると判断したからです。第1回の振り込みを3月19日に予定しておりますので、お買い物やお食事などにご活用いただき、家計への負担軽減に少しでもお役立ていただければと思います。

また、医療情報等分析事業にも取り組み、令和8年度からは、4年間を計画年度とした「宇美町医療費適正化推進計画」に沿った取組を展開するとともに、町民の誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、引き続き、医療・保健・福祉サービスの充実を図りながら、町民が自ら生活習慣の改善に取り組む健康づくりのまちを目指してまいります。

4つは、あらゆる災害に強い安心・安全なまちづくりを進めることです。

令和3年8月に発生しました、ひばりが丘道路法面崩壊に伴う災害復旧工事は、通行の安全が確保できたことから、本年2月20日に交通規制を解除し、車道及び歩道が通行可能となりました。

本工事は、令和5年7月に再び発生した災害に加え、地下水の影響及び現場条件の変化等により非常に厳しい状況下での施工となったため、地域の安全を最優先に考えたことで、大規模な工法の変更を行うとともに工期延長を余儀なくされました。

ひばりが丘団地にお住まいの方や本路線を利用される方々におかれましては、長期にわたる交通規制へのご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。この場をお借りしまして、改めて感謝申し上げます。

また今年度は、災害時の避難所としても利用する武道館にエアコンを設置し、既に供用を開始しております。また、災害時に下水道が使えない避難所などへ移動し、清潔な洋式水洗トイレを速やかに提供するトイレトラックの整備も進めております。

大雨、地震をはじめとした災害は、宇美町でもいつ起こるかわかりません。災害が発生しても、被害を最小限に抑えるために、引き続き、防災・減災体制の一層の強化を図り、町民が安全で安心して住み続けることができるまちを目指してまいります。

5つは、快適な移動が可能となるまちづくりを進めることです。

町内での移動を快適にするための交通手段 AI オンデマンドバス「のるーと宇美」は、導入から3年が経過しました。

「のるーと宇美」は、乗りたいときに電話やスマホのアプリで呼べるタクシーとバスの間のような乗り物ですが、宇美町の公式LINEからも「のるーと宇美」を呼ぶことができ、この取組での自治体がLINEと連携するのは九州で初めてでした。

「のるーと宇美」は、高齢者の利用が多かった福祉バス「ハピネス号」に比べ、買い物や病院に行かれる方、塾や習い事に行くための子どもたち、免許を返納された方など、幅広い年代層に利用していただいております。

入当初の 1 日当たりの利用者数は90人ほどでしたが、今年度は約1.4倍の126人と、多くの方々に利用していただいております。今後は、町域を超えての利用などを研究していきたいと考えています。

また、フル規格のスマートインターチェンジの設置に向けた取組や主要地方道や都市計画道路等の道路改良事業の早期完成促進を引き続き目指してまいります。

縷々申し上げてきましたが、その他にも町民の新たなニーズに対応できる行政のデジタル化を推進し、自治体 DX の取組を進めるとともに、町民が「便利になった」と実感できるような行政サービスの実現や行政事務の効率化を進めてまいります。

時代が急速に変化する中においては、新たなことに挑戦し続けなければ、町の発展はありません。

私は、今後も、新たな挑戦を続け、宇美町の未来を創ってまいります。

「宇美町に生まれ育った人」「宇美町に住んでいる人」「宇美町にかかわる人」すべてが、「このまちが、いい。」と思えるようなまちづくりのために、「未来を見据えた施策」を実行してまいります。

宇美町の豊かな自然、歴史、文化、「人と人のつながり」は、町のすばらしい宝です。その町のすばらしい宝を生かしながら、議員各位、町民の皆

さま、職員と共に、「このまち、がいい。」と選ばれる町をめざして、決断力を最大限に発揮しながら、スピード感をもってまちづくりに取り組んでまいります。

議員各位におかれましては、建設的なご議論とご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の二期目の所信とさせていただきます。

令和8年 3 月9日

宇美町長 安川 茂伸